

## はしがき

本書は、「法律文化ベーシック・ブックス (HBB)」シリーズの1書である。科学技術・経済活動の進歩・拡大に伴い、グローバル社会であると同時に情報社会でもある現代社会においては、犯罪も多様化し、かつ国境を越え、国際化が進む中で、刑法はいかなる役割を果たすべきか、について深く考える必要がある。本書は、これらを具体的問題に関連づけて共に考える素材を提供することを目的としている。従来のオーソドックスな刑法学習法は、刑法総論と刑法各論に分けてそれぞれ学説と判例を中心に解釈論を学ぶというスタイルであるが、法曹を目指さない多くの学生や犯罪と刑罰に関心を抱く多くの一般市民にとっては、オーソドックスに刑法を学ぶことは、理論が精緻すぎて、やや「高嶺の花」のように感じるとの声も耳にする。しかし、犯罪と刑罰は、人権問題に深く関わり、国民生活に大きな影響を及ぼすだけに、大学生のみならず、裁判員となる可能性のある一般市民の多くの人々に刑法をできるだけ身近に感じてもらふ必要がある。そこで、本書では、現代社会が抱える特有の重要な諸問題を選び抜いて読者が共に問題点を考えることができるように工夫を凝らして記述している。多くの読者が本書により、刑法がより身近なものと感じられることを期待している。

本書で取り上げた諸問題は、新たなものだけに、明快な解答を見いだせないものも多い。したがって、いかなる視点からどのような解決を目指すべきかを、本書を読みながら考え、さらに講義やゼミ等で議論をしながら考えていただきたい。このように考えながら学ぶことによって、現代社会における刑法の真の意義と役割に深く関

心を抱くことができるであろう。

本書の執筆者は、編者と学問的交流の深い中堅・若手の研究者で、それぞれの問題に造詣の深い方々である。ご多忙な中、本書の企画趣旨に賛同していただいたうえ、各章の構成提出、そして執筆者会議、さらには提出原稿の修正に至るまで、快くご協力いただいた。そのおかげで、短期間に予定どおり本書を刊行することができた。この場をお借りして各執筆者の方々に厚く御礼を申し上げたい。また、法律文化社の小西英央編集部長には、私の企画・発案を迅速に具体化して進めていただき、全面的支援をいただいた。ここに謝意を表したい。

2011年師走

編者 甲斐 克則